

センターだより

和歌山県障害者社会参加推進センター

〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2
県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛5階

発行人 井 関 謙 志

T E L 073-423-2665
F A X 073-428-0515

「スローガン」
改正障害者
差別解消法の
理解啓発を図ろう

新役員決まる

県身体障害者連盟の令和7年度第1回理事会が5月16日に、定時評議員会が6月14日に開催され、令和6年度の事業報告と事業会計決算報告がそれぞれ行われ、審議のあといずれも原案通り承認されました。

また、この評議員会においては理事及び監事が選任され、6月14日の第2回理事会で西井幸男氏の会長再任が決議されました。



なお、新理事には和歌山市の田中俊夫氏（肢体）、南海市の榎本真也氏（肢体）、有田郡の相原節子氏（肢体）、西牟婁郡の榎木正行氏（肢体）が選任されています。新しい役員体制は次のとおりです。（県身体障害者連盟）

新役員名簿

令和7年6月14日現在

役 職	再新	氏 名	障害別
顧問	再	吉田喜代司	肢体
顧問	再	渋谷年男	視覚
会長	再	西井幸男	肢体
副会長	再	幸前 勇	視覚
副会長	再	福田美枝子	聴覚
副会長	再	幡山雅雄	肢体
理事	再	宮本克二	視覚
理事	再	北山卓嗣	視覚
理事	再	中谷 倫也	視覚
理事	再	櫻井貴浩	聴覚
理事	再	山原順子	聴覚
理事	新	田中俊夫	肢体
理事	新	榎本真也	肢体
理事	再	泉中 條子	肢体
理事	新	相原 節子	肢体
理事	新	榎木 正行	肢体
監事	再	川嶋 至	肢体
監事	再	水城 実	——

第70回日身体障害者福祉大会が開催されました

身体障害者の自立と社会参加を積極的に展開、発展させ、その福祉の増進を図ることを目的として「日本身体障害者福祉大会」が去る6月12日（木）に横浜市において開催されました。今回の開催に至るまで、新型コロナウイルス感染症や能登半島地震の影響により中止やオンライン開催が続き、会場での対面開催は実に6年ぶりとなりました。

今大会では「日身連および加盟団体の組織強化を図ろう」「障害者権利条約総括所見を踏まえた地域共生社会を実現させよう」の2つのスローガンが掲げられました。



式典では、開会宣言に続き、大会実行委員長である地元神奈川県身体障害者連合会の内藤則義会長より挨拶があり、続いて大会会長であり日本身体障害者団体連合会の阿部一彦会長から挨拶がありました。

表彰の後、来賓として厚生労働大臣から挨拶（代読）があり、続いて祝電が披露されました。

その後、大会宣言、大会決議が採択されました。大会宣言は次のとおりです。

「全国の仲間とともに、ここ神奈川県において、第70回日本身体障害者福祉大会を盛大に開催することができた。

日本身体障害者団体連合会は、創立以来、障害の

ある者の立場から障害者施策の促進や障害特性に配慮した一層の環境整備に向け、加盟団体とともに全力で取り組んできた。

改正障害者差別解消法により事業者への合理的配慮の提供が義務化された今、円滑な運用がなされるよう、私たちが発信役となり、同法の意義と理解を地域に広げ、根ざしていかなければならない。

そして、災害時を含め、どのような場面にあっても、障害を理由に不利益をこうむることなく、また、孤独・孤立に陥らない社会環境の基盤整備のため活動していく。

日本身体障害者連合会に集う私たちは、互いにつながり、障害者権利条約の精神。私たちのことを、私たち抜きに決めないで、を心に、強い連携のもと、誰もが安全に安心して暮らせる地域共生社会の実現をめざして行動することを誓い、ここに宣言する。」

また、大会決議は次のとおりです。

一、日身連及び加盟団体連携のもと、組織体制の強化を図ろう

一、障害当事者参画のもとで障害関係施策を促進させよう

一、身体障害者相談員の活用と周知徹底を図ろう

一、実効性のある災害時の障害者支援体制を構築させよう

一、改正障害者差別解消法の理解啓発を促進させよう

以上、すべての式典が終了し、第2部では、公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会サステナビリティ推進部長の見宮美早氏の講演がありました。



最後に、次回開催地である宮城県仙台市から挨拶があり大会は閉会しました。



令和7年度視覚障害者対象iPhone講習会開催

早い梅雨明けを迎えた6月29日（日）、視覚障害者（見えない・見えにくい方）対象のiPhone講習会を開催しました。

講師で全盲の幸前勇氏の指示を受け、本来目で見える画像やアイコンを音声ガイダンスを利用することによって、独自の指動作を習得していきます。

受講された方からは、視力が下がってiPhoneが使えなくなり途方に詰っていたけど、諦めなくても良さそうだという喜びの声や、文字入力に難しいといった感想が聞かれました。

ここで受講された方の大きな助けになってくれるのが、ICTボランティアさんです。講師の指の動きを見て受講者の手を誘導してくれたり、聞き逃した指示を補足してくれたたり、マンツーマンでサポートをしてくれます。

ます。基本操作、メールの読み書き、ブラウザ検索などを学ぶことが出来ます。現在、申込みを受けつけておりますので、点字図書館までお問い合わせください。

●お問合せ先
〒640・8319
和歌山市手平2丁目1番2号
県民交流プラザ

和歌山ビッグ愛5階
和歌山県点字図書館
電話073・488・5721
FAX073・488・5731
（和歌山県点字図書館）



ICTボランティアさんは、主に外出することが困難な身体障害者の方のご自宅を訪問し、ICT機器のサポートをしています。



当事者にとつては、コンピュータ環境が整うことで、ブラウザでの情報収集、拡大文字や点字を読んだり、音声で聞く読書、メール作成、掲示板を見るといったコミュニケーションなど様々なことが可能になり、本当に大きな助けになっており、無くてはならない存在です。

身体障害者ICTボランティア養成講座を受講し修了された方が活躍してくれています。

この養成講座は、10月4日（土）・5日（日）に開催予定ですので、詳しくは、点字図書館までお問合せください。

またiPhone講習会に続き、視覚障害者対象のパソコン講習会も8月31日（日）、11月23日（日）に開催いたします。

【行事予定】

○8月3日（日）
点字啓発セミナー
（和歌山市）

○9月7日（日）
第68回和歌山県身体障害者福祉大会（和歌山市）

○10月3日（金）
和歌山県と和歌山県身体障害者連盟との話し合い
（和歌山市）

○10月25日（土）～27日（月）
第24回全国障害者スポーツ大会（滋賀県）

○10月26日（日）
和歌山県視覚障害者福祉協会研修会
（和歌山市）

○11月11日（火）
日身連近畿ブロック福祉大会・相談員研修会
（兵庫県）

○11月21日（金）
～11月22日（土）
日本ライトハウス福祉機器展（大阪市）

※行事は延期または変更、中止する場合があります。

「障害者スポーツ大会について」

令和7年5月18日に紀三井寺公園陸上競技場において第25回和歌山県障害者スポーツ大会開会式及び陸上競技を皮きりに、5月25日にアーチェリー競技・卓球競技、6月1日にボウリング競技・水泳競技、6月8日にボッチャ競技を開催し、延べ466名の選手がエントリーし、熱戦を繰り上げました。また、9月28日にはフライングディスク競技を開催予定です。

5月25日には、わたSHIGA輝く障スポリハサル大会兼第24回近畿地区ブロック予選会が開催され、団体競技ではバレーボール競技、バスケットボール競技、ソフトボール競技、サッカー競技、フットソフトボール競技に出場しました。

10月25日から27日まで滋賀県で開催される第24回全国障害者スポーツ大会には、和歌山県代表として個人競技に選出された選手や近畿地区予選を勝ち抜いた団体競技、知的男子バレーボールとフットソフトボールに出場します。

これらの大会では、選手を懸命に応援する人々の姿など多くの感動があります。

和歌山県障害者スポーツ協会のホームページ及びInstagramをぜひご覧ください。

(県障害者スポーツ協会)



令和7年度

和歌山県障害児者父母の会連合会総会が開催される

和歌山県障害児者父母の会連合会では、6月13日(金)に御坊市社会福祉協議会において総会が開催されました。総会の会場は、和歌山県内に於いて持ち回りで開催しており、御坊市での開催は6年ぶりでした。

その後、来賓の和歌山県福祉保健部の岩橋計幸局長からご祝辞をいただき、令和6年度事業実施報告及び収支決算書並びに令和7年度運動方針、事業計画及び収支予算等について承認されました。

(和歌山県障害児者父母の会連合会)



令和7年度和歌山市障害児者父母の会総会が開催される

和歌山市障害児者父母の会総会が令和7年6月8日(日)に和歌山市ふれ愛センターで開催されました。



式典において、来賓の方々からご祝辞を賜り、昨年度、各方面から表彰を受けられた会員の方々に記念品が贈呈されました。

その後、事業基本方針、令和6年度事業実施報告・収支決算、令和7年度事業実施計画・収支予算等が承認されました。(和歌山県障害児者父母の会連合会)

令和7年度和歌山市障害児者親子のつどい

和歌山市内に在住する障害児者とその家族等が旅を通じて相互の交流と親睦を深め、意見交換を行うことで障害児者福祉の増進に資することを目的に令和7年5月16日(木)・17日(金)にかけて和歌山市障害児者親子のつどいが開催されました。

初日の出発式では、主催者の和歌山市長 尾花正啓氏からのご挨拶に続いて、和歌山市障害児者父母の会会長 岩橋正悟氏のご挨拶のあと、綜成苑の参加者から謝辞が述べられました。参加者151人がハーベストの丘を巡る一泊二日の旅を満喫しました。

(和歌山市障害児者父母の会)



心の健康問題は皆がかわる社会に

◆日本の精神科医療の現状
今わが国では、入院中心の精神医療に代わる新しい精

神医療を考えることが求められています。行き詰まっていることを感じている関係者が増えています。

新しく精神疾患に罹患した人たちの状況を見ると、日本でも先進諸国と同様に地域ケアの様相にしていかなければと少し気運が高まってきています。日本は先進諸国と違って、精神医療政策が入院中心のため地域ケア体制が不十分です。日本の地域生活は当事者と家族任せ(自己責任)です。

先進諸国では、地域ケア体制が整い、日本以外は医療行政は県単位が責任を持って当事者を支える公的責任です。

◆世界標準の精神医療
日本国内だけを見て考えていても展望は見えてきません。そこで世界(先進諸国)標準の精神医療はどうなっているかを知ることが、わが国の精神医療の今後を考える上で大切になってくると

思います。
先進諸国のイギリス、イタリア、アメリカなどでは、医療支援・生活支援・所得保障によつて、精神の病気や障害があつても地域で社会生活を送れるようになっています。これが先進諸国の標準の精神医療であり、今日の到達点です。

◆精神医療に対する考え方の転換

日本は、薬の進歩や入院医療の在り方に対する反省がなされることによつて、関係者の精神医療・精神障害者の処遇に対する考え方も変わってきました。以前は、病気を治すことを第一主義と考えて入院政策がとられていましたが、薬によつて地域で治療できるようになった今日では、病気や障害があつても、当事者の生活の場で支援する戦略へと転換の兆しが見えてきました。

政策転換が進んだのはこうした抗精神病薬の発見、長

期入院問題の反省、精神医療(精神科特例廃止)の考え方

の転換という3つの大きな要因がありました。

◆他の疾患にはない当事者と家族の深刻な実態

日弁連(日本弁護士連合会)のアンケートや「みんなねつ」と「全国精神保健福祉会連合会」の家族調査は、わが国の精神医療が、当事者とその家族に過酷な困難を背負わせている実態を改めて明らかにしています。医療は利用者本位であるべきで、利用者が主人公です。これは医療の当たり前の常識です。しかし、精神疾患の当事者や家族には、この常識が程遠いのが現状です。これは精神疾患に対する差別であり重大な人権問題です。

心の健康の問題は、病気や障害がある当事者や家族だけの問題ではありません。全ての国民、社会、政治の大きな問題です。

◆家族が直面している7つの困難(みんなねつと全国調査)

○病気が悪化のときに必要な支援がない
○困ったとき、いつでも、相談ができ、問題を解決してくれる場がない
○本人の回復に向けた専門家による働きかけがなく家族任せ
○利用者中心の医療になっていない

○多くの家族が情報を得られず困った経験を持つ
○家族は身体的・経済的健康の不安を抱えている
○家族は仕事をやめたり、経済的な負担をしている

◆終わりに

日本の地域ケア体制は、先進諸国から大きく立ち遅れていると感じています。しかし、日本にも先進諸国と見劣りしない地域ケアの取り組みがあります。1999年WAPR(世界心理社会的リハビリテーション学会)は、世

界の重度精神障害者を地域で支える取り組みのプラクティス(先進的活動)として、世界の80箇所の活動を認定しました。この内日本は、北海道の帯広ケアセンター、埼玉県のやどかり、群馬県の佐波郡境町の精神保健活動、東京のJCB板橋、和歌山県の麦の郷の5箇所の施設と地域が認定されました。

現在では、この他にも全国各地でいろいろな取り組みが行われています。日本は地域ケアも取り組みは未知の世界ではありません。

問題は、こうした取り組みを全国的に見ると「点」の状況です。「点」すらない地域が多数です。国が責任を持つて、全国各地に地域ケア体制を構築するなら、日本でも地域ケア中心の精神医療体制の構築は可能です。

和歌山県においては、昨年7月28日家族依存から社会的支援に向けて進める会(略称:進める会)が、地域ケア中心の精神医療を実現すために、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築(以下、「にも包括」という)を推進していくというテーマで講演会を開催しました。

「にも包括」は、精神障害者が地域の一員として、安心して自分らしい暮らしをすることができるよう医療、障害福祉、介護、住まい、社会参加、地域の助け合い、教育が包括的に確保されて「入院医療中心から地域生活中心」へと転換していくという理念です。

令和7年度において、「にも包括」を更に啓発していくために、講演会、シンポジウム等開催を実施し「心の問題は皆がかわる社会に」に向けての活動を予定しております。ご支援、ご指導の程どうぞよろしく願います。(和歌山県精神保健福祉家族会連合会)

第52回夢ふれあい俳句大会

和歌山県視覚障害者福祉協会

6月8日(日)に和歌山市のビッグ愛において、第52回目となる夢ふれあい俳句大会を開催しました。

当日は、来賓として県教育総務局人権教育推進課 岩井美紀課長、県障害福祉課の明石幸子副課長に臨席いただき、15名の参加者のもと盛大に大会を開催できました。

雑詠の部に投句された五十四句の作品はいずれもが力作揃いで、また当日の席題として出された「梅雨」又は「網戸」をテーマに今回は皆様にご3日前に問題をお伝えし、句をお考えいただきました。



大倉先生から、俳句を考えるコツや季語の話について分かりやすくご講評いただきました。会場は終始笑いに包まれながらも、参加者は今後の俳句作成に活かそうと熱心に耳を傾け、句への質問等も積極的にされていました。入賞者は次のとおりです。

○雑詠の部

天賞 ランドセル歩くようなる一年生 御坊市 藪内まさみ

地賞 手を伝う大地の鼓動ふきのとう 海南市 奥野 幸子

人賞 薫風や白杖の傷撫でてやる 和歌山市 丸山 孝雄

○席題の部

天賞 折りたたみ傘持ち歩く梅雨近し 田辺市 坂井伊津美

地賞 網戸越し用は無いかと出勤す 海南市 大松 京子

人賞 古網戸子等は果立ちて夕の風 紀の川市 本間美知子